

みずみどり

2004年1月15日

第40号

発行：いたばし水と緑の会 事務局

年会費 2,000 円 郵便振替 00170-8-352508 いたばし水と緑の会

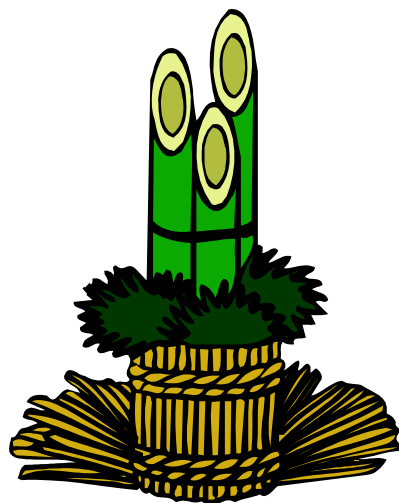
<http://homepage3.nifty.com/mizutomidorinokai/>E-mail : [mizumidori@nifty.com](mailto:mizumidori@nifty.com)

〒174-0063 板橋区前野町 5-31-7 瀬田方 tel&amp;fax3969-7124

## 松飾りと松の木について

明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願い致します。

一年がやたら短く感じますが、時は年齢に比例して速くなるように感じるものらしい。満で齢を数え、生活の洋風化が進み飽食の世になってから、正月がますます普段と変わらなくなってきた。正月と言えば門松を飾る(門飾り)風習があるが、最近はクリスマスの電照飾りが盛んになってきたのとは対照的に、廃れてきている。昔は師走に入ると商店街では各店先に、松の枝と藁の環飾りなどを(枝の付いた)青竹に束ねて1対の正月飾り



りが取り付けられて、街が活況を呈したのが懐かしく思い出される。ビルの入口には、太い竹を斜めに切って松の枝で囲んで藁で巻いた松飾りが多かったが、不景気のせいか飾らないところも出てきた。大型店や安売りショップ・コンビニ・ファストフード店の進出で、商店街も賑わってはいるが正月の風情は無くなってきた。

マンションも飾らないところが多い。迎える年神様のよりしろ依代(宿る木)として松の木を門に多く立てたところから、門松と呼ばれるが、地域ごとに伝統的な飾り方があり、松以外に柳や椿、栗、朴、水木、榊など近くから自分で取ってきた木や竹が用いられ、これらの木は他所の山から勝手に取ってもよかったとか。また、昔から飾らぬ土地もあるようだ。

市街化で近くに緑がなくなり、松の小枝を売るところから実生の松の若木を殖栽する産地もあるようだ。飾らない家や玄関ドアに環飾りとか絵を飾る家が多くなるなどで、松を育てる産地も消えていく運命なのかもしれない。農業の機械化で藁も手に入れにくくなっている。

松の枝が使われたのは、常盤木で常に葉が茂る(繁栄する)こと、葉は落ちて二枚(本)が離れずにいることから、夫婦のありようになぞらえて縁起がいいことなどが考えられる。

山から取ってきた松は赤松が多かったが、赤松は火山など痩せ地で水はけのよい日の当たる荒地に生育し、土地の富栄養化とともに落葉樹や、暖かい地方では照葉樹に入れ替わっていくと言われている。

区内では赤塚公園の溜池周辺の丘に4,50本(民有地を含む)生えているが、中には樹勢が衰えたものも散見されるので、今後見守っていききたい。

[追記]

黒松は区内では植栽されたものが多いようだが、塩害にも強く海岸や岩礁などに多く見られ、白砂青松が日本の海辺の景勝を表す言葉にもなっている。海岸の防風・防砂の目的で、人工的に植栽された海岸もあちこちにあり、お城や公園などでも風格を保つのに黒松を多用している。松の幹は真っ直ぐではないが強いところから、家の梁(マツパリといわれた)に使い、水の中で腐りにくいところから土木工事で基礎杭にも良く使われていた。

松枯れが問題になって久しいが、マツノマダラカミキリが媒介するマツノザイセンチュウが原因と言われている。東海道線から沿線の松が、あちこちで赤く枯れていくのを、現役時代によく眺めた記憶があるが、雑木に囲まれて日照や風通しを損ない、腐葉土が積もって水はけが悪くなり過湿で、木が弱ったことも一因ではないかと考える。

松科の木は北半球だけにあり、世界に90種、日本には6種あると言われるが、亜種や園芸種、外国産の松(ダイオウショウ、ヒマラヤスギ、ドイツトウヒなど)がある。五葉(ハイマツ)のものや、3葉(ダイオウショウ)のもの、カラマツやヒマラヤスギ(正しくはヒマラヤシーダー)はもっと多数の葉があり、亜高山帯に自生の松類(モミの仲間など)では太い葉が1枚づつ枝に付くなど葉も多彩である。マツと名がついてもマツの仲間ではないラクウショウ(落羽松:ヌマスギ)や、スギというが松であるヒマラヤスギもある。松科の大きな特徴は球果(松笠、松ぼっくり)が生ることで、樹種により大きさは異なる。ヒマラヤスギの球果は未成熟のものは白く上向きになるので、梅雨時に白いインコが多段の枝の間で雨宿りしているように見えたりするので(剪定されて実が付く木は少ないが)、観察をお勧めする。



猪鼻昭二

赤塚公園四葉地区のアカマツ

## 2003年トンボ池の管理

池や水路の管理清掃について、やり過ぎはよくなく、様々な問題も生じました。狭い地域内で、ヤゴ・昆虫等の保護観察、また水辺の植物の植え付け・保護と、草刈りの兼ね合い等、全てによい結果を出すことは、大変なことだと痛感している今日この頃です。多くの人の協力が必要です。

赤塚トンボ池と水路のザリガニ退治とコイの捕獲について

ザリガニの完全駆除は不可能で、いかに数を少なく保っていくか、捕獲用のカゴで、回数多く仕掛けていくしかないのではないのでしょうか。

コイが放流されていることは、ザリガニを減らすためにはマイナスではないようです。聞きましたことによると、コイはどちらかといえば肉食性なので底泥中の底生動物などを泥と共に口に入れ、泥を吐き出しながら摂食するので、親離れしたばかりのザリガニの子などを食するそうです。

ザリガニは数百の卵を産みますが、生育するのは数匹程度とのことです。赤塚の池の場合、天敵もなく繁殖率も高いようです。コイについては、浅い池なので非常に警戒心も強く、釣りによる捕獲は早朝か夕暮れ時が一番だと思います。餌等に制限があると、いっそう困難です。投網による捕獲の方法もありますが、どちらがよいか検討する必要があります。いずれにせよ、ヤゴ等にとっては天敵なので、両方の駆除が必要でしょう。

赤塚や溜め池公園を散策に訪れる人にとって、池に何もいないのはつまらないようですが、理解を求めるしかないようです。

水路のザリガニは仕掛けによる捕獲は困難なので、こまめに落ち葉などの下を調べてとるしかないので、数多く足を運ぶことです。今年はオオスズメバチの飛来が多くあり、敬遠しておりました。

3年間の赤塚トンボ池のザリガニ捕獲数は次の通りです。

2001年 約 1000 匹

2002年 約 1800 匹

2003年 270 匹

乗蓮寺下のピオトープは、小さな池なのにザリガニは意外に多く、浅いので真田さんのつくった網でよくとれます。捕獲数は2002年に54匹、2003年に47匹でした。

(注:乗蓮寺下のピオトープにザリガニが捨てられたのは、2002年6月。そうしたら池中に繁茂していたセリ、クレソン、藻が1、2ヶ月できれいさっぱりなくなった。泥の中に潜ったザリガニはとりきれず、ここもザリガニの繁栄の場となってしまいましたね。小さな池なので元が数匹でも破壊力は大。全部取り尽くす名案はないですか)。

## 徳丸が原公園のトンボ池

これまで、ザリガニ退治をしていますが、いるようです。浅い池で、小学校に隣接している関係で、水温む頃になると完全に遊び場と化してしまい、オタマジャクシ、ザリガニ捕りの場となってしまいました。ヤゴの生育に適しているとは思えない現状です。毎年柵の修理を行っていますが、壊れるのが早いようです。昨年はヤナギの挿し木を試みたが失敗でした。この池の運営は再検討の必要を感じます(森 輝夫)。

## 赤塚トンボ池のこと

### ひとりでに育った木に罪はないけれど

10月に池の周り(広場側)の木を切ったので、切り株の直径を測ってみました。

ケヤキ(トンボ池をつくる前からあった):株立ちしていたので、16cm×12cmと楕円形

アカメガシワ大:直径16cm

ヤナギ:直径12cm

ほかにヌルデやアカメガシワの小さい株もありました。土の池が完成したのが平成11年4月なので、4年半経過したことになります。この間に近くの木の実が野鳥に食べられ、糞とともにここに落とされ、芽を出し、たった4年半でよくぞここまで大きくなったものです。しかし、中が見えない、水草の生育が悪いのはザリガニのせいばかりでなく、日当たりが悪いからでは、などの意見が出てきました。放置すれば長い時間のうちに樹林地になる、ならばということで、木を切ることになりました。

伐採したのは10月。大きくなっていたので作業は大変だったそうです。切った枝が山になって残りました。いたばし水と緑の会は、ここで枝葉をゴミにするわけにはいきません。

11月6日、池の奥に、落葉や小枝を積んでおく堆肥置き場をつくりました。しっかりした杭を打ち、切った枝と、バツ広場で刈ったアズマネザサを使って日本庭園風(?)の立派なものです。落ち葉が腐るとカブトムシなどの幼虫が育つかも知れません。



公園課が広場のスタジイを剪定したことは、池にとっては幸いしました。10月に広場側の木を切ったので、さらに明るくなりました。

水草の生育によい条件が整いました。池の水位を下げるため、池水がオーバーフローして溜め池に行く水路の泥さらえをしました。池から水が勢いよく流れ出し、水位が下がり、湿

地(半島)が少し現れました。春の芽出しを期待しましょう。

橋の下流側には、タカサブロウが種をつけています。

落ち葉が積もっている水路の上流側を少し掃除しました。そうしたらなんと、

### オニヤンマのヤゴを発見！体長4cm

オニヤンマは日本最大のトンボで、きれいな谷川に卵を産み、ヤゴでいる期間が2～3年あるのですが、これは体長が4cmあるので、来年は羽化すると釣巻さんが断言しました。この水辺にはザリガニはたくさんいます。水路にはカワニナが増えましたが、ミズムシなど小さな生物がほとんどいません。ヤゴが育つには悪環境とっていましたが、ザリガニにも食われず、ザリガニの子供を食べて(?)生存するのもあるんですね。そのうえ



### 全長2cmくらいのヨシノボリも 発見！



真田さんが見て、ヨシノボリだと確認。どうしてここにいるのか、考えてみたのですが、

例によってだれかが池に放した

水鳥の脚に卵がくっついて池に来た

溜め池から上がってきた(溜め池から水路を通り、いったんトンボ池にきてから、水路上流にあがってきたのか、あるいは溜め池から直接水路を上ってきたのか。直接だとすると水路は50m以上あり、少し湿ったところと、15mほどの水の流れていない区間もあるのに)

トンボ池もできてすぐに急増したザリガニやブラックバスを捕獲するためにかいぼりをしましたが、そのときもヨシノボリもいました。ヨシノボリは、腹だか胸のヒレが吸盤になっていて、水がなくても移動できる魚です。全長2cm位だったけど、ここで生まれた稚魚だろうか、どういう冒険をしてここにきたのだろうか、などなどいろいろ想像しています。

毎年冬に水路の掃除をしていましたが、水の確保は二の次にして、落ち葉の除去する程度にしたほうがよさそうですね。

気温13。寒くなって動きがにぶくなったザリガニを15匹捕獲しました。大きいものも3匹。いた場所は水路の上流から下流にかけてでした。

# バッタ広場に 生えてきた木



南側半分の樹木を伐採した後(11月22日)

日本では草原はほっぽらかしにしておけば森になる。そんな事が実感できたバッタ広場の3年間であった。もちろん、ここは諸々の事情で森にしてしまうことはできない。そんなことで2003年は生えてきた木を切り取る作業を行った。

作業の前にどんな木がどんな具合に生えてきたかを記録しておかなければならない。素人の調査だからたいしたことは出来ないが、やっておかなければならないことである。今回ここに書くのはその結果ではなく、生えてきた木、生えなかった木についての私の感想である。

まず全体的な印象の第一は、生えた木は周りにある木ばかりであるということだ。当たり前といえば当たり前の話だが、身をもって実感することができた。森が自然に広がる速度がなんとなく分かるような体験であった。

## 鳥が運ぶ木

一番目につくのは鳥が運んできた種から芽生えた木だ。もちろん食われて、糞になって出てきたやつである。エノキが代表、バッタ広場多分9割以上が本種だろう。すぐそばにエノキの大木があり、日当たりも最適なためであろう。

ムクノキ、アカメガシワ、ヌルデも鳥に運ばれてきた木だがエノキに較べるとはるかに少ない。アカメガシワ、ヌルデが少ないのは近くに実がなる大きな木がないせいであろう。ここから200mぐらい先には生えているのだが、小鳥の場合は30mも離れると運ばれる種子は極端に少なくなるという研究結果がでているようだ。アカメガシワとヌルデは運ぶ距離が大きいカラスが良く食べるという結果もでているそうである。近くに大木があってもムクノキが少ないせいは、バッタ広場の日当たりが良く乾燥しているからであろう。ムクノキの実生は大体斜面の下部に見られる。

周りにたくさんあるのに一本も見つからなかったのは、シロダモ、アオキ、ヒサカキの3種である。関東地方の照葉樹林の中、低木層には普通の種で、良く育った落葉樹林でも割合見られる。赤塚城址ではアズマネザサが多い部分にはこの3種が生えていない。笹が嫌うほど暗くなった林床で、実生がゆっくりと成長する性質のためか、シロダモなどが生えて暗くなったので笹が枯れてしまったせいかな。私は前者だと思うが、バッタ広場にこの3種が生え、

成長したら、後者が正しいということになる。ついでに言うとシロダモは武蔵野台地末端の崖線部から沖積低地にかけて広くみられるが、台地中央の平坦地にある雑木林(新座市や三芳町など)ではまず見られない。湿潤な土壌を好む植物なのであろう。アオキ、ヒサカキは現在、平坦地の雑木林の林床でもよく見られる。

常緑樹でほんの数本があったのが、トウネズミモチとヤツデ、一本もなかったのはシュロである。トウネズミ、シュロはかなり明るいところでも芽生えるようだが。

ゴンズイとサンショウ、タラノキも生えてこなかった。ゴンズイは赤塚 8-22 の南斜面に実をつける木が 1 本ある。サンショウは多分民家の庭に実をつける木があるのであろう。両種とも実生が美術館近くの斜面に数本見られる。タラノキは城址の東端にあり、確か花も咲いていたはずだが。バッタ広場でもそのうち生えてくるかも知れない。

どういう訳か見られなかったクサギ、理由は私には解からない。バッタ広場の東向かいに何本か生え、花も咲いている。場所によっては実生がウジャウジャ生え、嫌われ者になっている。発芽試験では、そのまま蒔いたのでは発芽せず、鳥の糞中のものなら 100%芽がでるそうである。見かけもまさに鳥散布の典型である。

(釣巻岳人)

## 荒川河川敷の小径

久しぶりに荒川に行ってみました。この冬は暖かくて、12月にもう春の花が咲いているよ、と猪鼻さんが話していましたが、霜のなかにタンポポが種をつけていて、ちょっと不思議な景色でした。

もう一つ不思議なことは、自然地の中の小径が大通りになっていること。競技場が透けて見えます。池も透けて見えます。公園課では草刈りをしていないそうです。



広くなった小径。幅は右の小径の3倍以上ある。

# 活動のお知らせ

**運営委員会は毎月第1金曜日です。どなたでも参加できます。**

2月運営委員会 日時： 2月6日(金) 18:30~20:30

3月運営委員会 日時： 3月5日(金) 18:30~20:30

**いずれもエコポリスセンターです。**

**会報の印刷・発送は奇数月の15日。お手伝いできる方は応援よろしく**

日時：3月15日(木) 17:30~ 場所：エコポリスセンター

**活動の問い合わせは瀬田まで(3969-7124)**

**毎月第4土曜日が定例の活動日です。この日は、赤塚や徳丸が原公園で私たちが作った自然の場所を中心に午前中は自然観察とゴミ拾い。必要な修理等があれば午後行います。観察会は原則として雨天も実施します。**

## 1月の活動 赤塚公園徹底クリーンアップ

日時：1月24日(土) 10:00~12:00 場所：美術館前トンボ池

持ち物：軍手、ゴミ袋、タオルなど 終わったら：新年会

**新年会(年が変わったのでやはりやらねば)**

**時間がある人はクリーンアップにも参加してね。忙しい人は新年会だけ来てね。**

日時：1月24日(土) 12:00~14:00

場所：孝松(とんかつ)(赤塚7-8-11、電話3939-4958)下赤塚駅から赤塚中央通り(松月院向う道)の右側に入る(看板あり)。参加費：2000円程度

## トンボ池のコイを捕獲します

冬の水の中は冷たいですが、冬は困った来訪者コイの動きが鈍くなる季節。胴長をはいて、真田方式で捕獲します。

日時：2月8日(日) 10:00~12:00

場所：美術館前トンボ池

## 2月の活動 赤塚公園冬の観察とゴミ拾い

日時：2月28日(土) 10:00~12:00

場所：美術館前トンボ池

持ち物：ルーペ、双眼鏡、軍手、ゴミを入れる袋、など

## 梅まつり

梅まつり会場で赤塚トンボ池と会のPRをします。昨年同様の工作を考えていますが、詳細は未定です。工作コーナーは例年にぎわってすごく忙しいので応援をお願いします。

日時：3月6日(土) 10:00~15:00

3月7日(日) 10:00~15:00



**みなさんに配った植物調査シートは観察会の度に活用します。**

篠原先生が赤塚周辺の植物調査記録をもとに作成。アイウエオ順にならんでいるリストにつける方法で記録も集計も容易。1年間とおして観察した種をみんなで記録しましょう。